

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 成田市立公津の杜小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒286-0048 成田市公津の杜3-2

E-mail es-mori@city.narita.chiba.jp

Website http://www.city.

児童生徒数 男子 398名 女子 398名 合計 796名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉教育)

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. ESD 推進委員会（教師側）の取り組み

- (1) 各学年における教科教育と ESD との関連（表 1）を図る
- ・年間指導計画と ESD の視点の関連づけ
 - ・学年における年間指導計画と ESD の視点の話し合い

表 1 ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)

①批判的に考える力《批判》
②未来像を予測して計画を立てる力《未来》
③多面的・総合的に考える力《多面》
④コミュニケーションを行う力《伝達》
⑤他者と協力する力《協力》
⑥つながりを尊重する態度《関連》
⑦ 進んで参加する態度《参加》

「人」、「まわり（空間）」、「時間」をつなぐ

(2) 児童 ESD 委員会の方向付けと共通理解を行う

- ・代表委員会での話し合いの内容の確認
各月の代表委員会での話し合いにおいて、ESD のねらいに関連した内容を話し合う
- ・児童に取り組みさせる内容の話し合い
各委員会での ESD に関連した活動計画
…計画委員会「あいさつ運動」、掲示委員会「学校が好き」「地域が好き」俳句掲示、等
- ・校内における ESD に関連した掲示物及び環境の整備
ESD パスポート実践の写真紹介
世界地図（正対及び逆さま）の掲示、世界の国への関心を高めるための掲示

2. 児童会活動（児童側）の取り組み

(1) ESD 委員会を中心とした委員会活動

- ESD 委員会…代表委員会にて、「あいさつ運動」への呼びかけ、各種活動への呼びかけ、
「服のチカラ プロジェクト」の実践、
計画委員会…朝のあいさつ運動を推進
エコ委員会…毎週水曜日のリサイクル活動、エコキャップ回収
掲示委員会…「学校のよいところ、好きなところ」俳句の呼びかけと掲示
栽培委員会…一輪挿し運動
給食委員会…食への関心を高めるための給食時の放送
図書委員会…世界に目を向けよう 「国を知ろう」クイズの掲示

(2) ESD パスポートの取り組み

実践の場については、学校が模索し、以下の2カ所に依頼した。

○グループリビング「ももとせ」 代表 夏目幸子氏

学区にあるグループリビング「ももとせ」にて、ボランティア活動の場を設けた。主な活動は、草取り、室内の掃除、お年寄りの荷物運び、等である。毎週月曜日を基本とし、次の活動については、訪問した際に決定していくこととなった。当初、受け身であった子どもたちであるが、次第に自主的にボランティアに参加するようになった。毎週「ももとせ」に行くことを日課としている児童も出てきている。また、兄弟と一緒に活動し始めた3年生も現れた。

○コミュニティセンター「もりんぴあ こうづ」

学校前のコミュニティセンターにて、ボランティアの場の提供を依頼した。主な活動は、草取り、「こどものまち」ボランティアスタッフ、「もりんぴあフェスティバル」スタッフ、等である。主な行事のある時に、学校にファックスで募集がきて、子ども自身が「もりんぴあ こうづ」に申し込むという方法をとった。

「もりんぴあフェスティバル」では、パンフレット配布や人数のカウントの仕事をを行った。仕事を始めた際には、姿勢などを注意されたり、挨拶の声の大きさを指摘されたりしていたが、次第に大きな声で来園者に対応できる児童が増えてきていた。

(3) 「服のチカラ」 ～ユニクロとのコラボによる難民支援への取り組み～

ユニクロが行っている「服のチカラ 難民へ衣服を送ろう」の主旨に賛同し、活動を行った。最初に、ESD 委員会とエコ委員会が、ユニクロのプレゼンを聞いた。ここで「服のチカラ」を認識した児童は、衣服回収のために、学校及びコミュニティセンターへの呼びかけを開始した。自ら手紙を作って配布したり、学校及びコミュニティセンターに回収ボックスを設置したりして、衣服の回収を行った。

(4) 結果と考察

① ESD 委員会を中心とした委員会活動

委員会や委員会担当者によって、まだ「ねらい」が十分に共通理解されていない部分があった。「なんのために活動するのか」という主旨を理解しておかなければ、取り組んだという活動のみになってしまう。ESD の主旨及び行動のねらいの共通理解の場が必要である。

朝の「あいさつ運動」には、計画委員がよく取り組んだ。自分が率先して行う立場として、毎朝職員室に「あいさつ運動」のたすきを取りに来て、責任をもって挨拶を行っていた。しかし、一方では、挨拶に受け身及び消極的な児童もいた。「だれとでも」「いつでも」という意識を高めるための、今後の取り組みへの検討が必要である。

② ESD パスポートの取り組み

日本ユネスコ協会発行の「ESD パスポート」への参加。5, 6 年生児童の希望者約 77 名に配布した。

取り組みの程度について表 4 に示す。

表 4 ESD パスポートの取り組み状況

人数 \ 回数	0～1 ボランティア	2～14 ボランティア	15 ボランティア以上
5 年 (58)	24 名	27 名	7 名
6 年生 (19)	15 名	4 名	0 名
計 77 名	39 名 (50.6%)	33 名 (42.9%)	7 名 (1.1%)

継続して実践している児童は約半数であり、そのうち 7 名の児童が 15 ボランティア以上の取り組みをした。

約半年の期間で一番多くボランティアをためたのは 19 ボランティアの児童がいる。児童の感想を見ると、1 回の児童は「褒美がもらえてうれしい」という感想を述べているのに対し、複数回行っている児童は「ありがとうと言われてうれしかった」「相手に良いことをしたら、自分もうれしくなった」という他者への思いの他、「自分がこれまでに知らなかったことを知ることができた」「ぞうきんがけなどの正しい方法がわかった」と、自分に返る感想が見られたことが特徴であった。

15 ボランティアをためた児童については、2 月には成田ユネスコ協会へ申請する予定である。また、今回ボランティアを行った場所の一つグループリビング「ももとせ」は、3 年生が「花いっぱい」活動で、花を植えた場所である。お年寄りの生活の場としての「ももとせ」をきれいにする、という活動が、ボランティアという活動につながり、そして、自分たちの地域への愛着となるとよいと考える (表 5)。

表 5 ボランティアをした児童の感想 (よかったこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいるお年寄りができないことを自分たちが代わって行い、喜ぶ姿を見ることができてよかったです。 ・*上記のように、「相手に喜んでもらえた」という意見が多数 ・居住者の方が少しでも楽になってくれてうれしい。 ・自分の意見をはっきり言えて、自分で行動することができた。 ・お礼を言ってもらえてうれしい。人の役にたててうれしい、など ・みんなが気持ちよくなってくれた

一方、ボランティアを行う場の不足やボランティアを行う際の保険の扱いが課題である。前述のボランティア活動が 0～1 回の児童のうち、82.9%の児童が「活動の場があれば行いたい」と答えている。ボランティア活動の場として、学校がより幅広い活動の場を模索するとともに、自治会などにも働きかけていく必要がある。また、保険については現在、成田ユネスコ協会に働きかけている最中である。今後、早急に児童の安全を保証していく必要がある。

③ 「服のチカラ」 ～ユニクロとのコラボによる難民支援への取り組み～

回収した衣服の仕分けを行い、きれいに段ボールにつめて衣服回収センターに送った。回収された衣服は段ボール箱 15 箱分、1, 304 着であった。回収を進めていく中で、「まだタグがついている」「こんなにきれいなのに、自分が代わりに着たい」など、手に入れた衣服の「何を」手放すのかということについて感じた児童もみられた。

今回の活動は計画的に行われたものではなく、試行の段階であった。しかし、教師が投げかけることによって、子どもたち自らが「衣服を回収して送りたい」と願い、自分達を感じた「思い」を行動に表すことができたのは一つの成果であった。次年度以降、この活動を計画的に仕組み、より充実した内容で取り組むことがより一層の教育的効果を高めると考える。

一方、自分の服に対する考え方やモノとのかかわりについては、教科教育の中で不十分な状態のままであった。「モノを大事にする」「手に入れたものと長くかかわる」ことについての学習とどう関連させていくのかについては内容の検討を図り、児童自身意識を高めていく必要を感じた。衣服を他国に渡す（譲る）ということは、その国の衣服生産についても考えていく必要がある。次年度以降この衣服回収を行う際には、この活動と学年及び教科等の関連を考えていく必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 児童会活動として実施 ）